

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

【評価区分・5段階】
 5:当初目標を十分達成した(101%以上)
 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)
 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)
 2:当初目標の半分程度達成した(41~60%)
 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組と評価	内部評価	次年度以降の課題	外部評価	外部評価者コメント
1 学生の確保	<p>○平成以降入学者の定員割れが続いている。</p> <p>○直近5年は年平均20名と低迷(受験者数24名)</p> <p>定員40名 ↓ 実績:19.6名 (H28~R2平均)</p> <p>出身高校の属性(H28~R2) 農業38%、総合14%、普通40%、商工業8%</p> <p>○県外からの入学者は増加 直近5年は毎年県外からの学生が入学 年平均3.2名。</p> <p>(県内外の属性(H28~R2)) 県内83%、県外17%</p> <p>○アグリビジネス学科(H29新設)の入学者も低迷</p> <p>定員10名 ↓ R2年度4名 (H29:8名、H30:5名、R1:0名)</p>	<p>○令和3年度入学生:32名確保 園芸学科:24名 アグリビジネス学科:8名</p>	<p>《取組》 ○高校へのアプローチ ○オープンキャンパスの開催 ○出前授業、ガイダンスの実施</p> <p>《評価》 ○目標の6割の学生を確保 令和3年度入学生20名 園芸学科:18名 アグリビジネス学科:2名 (入学生の属性) 出身校:農業50% 総合10% 普通30% その他10% 県内外:県内85% 県外15% 《参考》 応募者:23名(推薦15名、一般前期5名、一般後期3名)</p>	<p>3</p> <p>高校へのアプローチを強化する。学校訪問等の説明資料を再編集し、アグリビジネス学科入学生の獲得を目指す。</p>	3	様々な工夫と活動を行っていることは高く評価できる。県外入学生が増えているなかで、和歌山県農林大学校の特色を出すことが大事。全国的に学生数が減少していきながら、確保が年々困難になっていく。県外の受験生をターゲットに、果樹を強調した農林大学校PRチラシの作成も検討してみてもよいのではないかと。	
	<p>○高校へのアプローチ ・学校訪問 ・資料送付 ・高校職員の関係会議でPR</p> <p>○募集要項、学校案内等の送付(4月) 募集要項 学校案内 県内 50校 50部 255部 県外321校 658部 674部 計 708部 929部</p> <p>○教育関係者への出席、農大概要説明(校長、副校長) 教頭会議 7/1 新型コロナウイルス影響により招請されず →募集要項120部を配布 進路指導部長会議 7/2 副校長説明 進路指導研究会等 9/4 //</p> <p>《評価》 ○高校訪問、資料送付 オープンキャンパス前の適時訪問や説明マニュアルによる要点説明など適切に行えた。 ○会議への出席 教頭、進路部長などへ直接説明でき効果的であった。</p>	<p>《取組》 ○学校訪問巡回回数 4巡 高校訪問 6、7月、9月、11月、1月 延べ90校 県内 80校 県外 10校 高校への説明マニュアルを作成 職員が和農大のPRポイントを共通認識のうえ、巡回</p>	<p>4</p> <p>普通科系高校は、本校の卒業進路について、就農するイメージが強い。次年度は、多彩な就職先や高い就職率など、最近の動向を強調して巡回説明する。</p>	4	高等学校へのアプローチは十分に行われている。引き続き実施してほしい。学生の進路が多様化するなかで、卒業生の就職率の高さや多彩な就職先をもっとPRするべき。		
	<p>○オープンキャンパス 5回 ・夏は高校3年生、 ・春は1、2年生をターゲット</p> <p>《参考》 4年制大学での農学系学部の新設状況 ・吉備国際大(H25、兵庫県) ・龍谷大(H27、滋賀県) ・立命館大(H30、滋賀県) ・摂南大(R2、大阪府)</p>	<p>○オープンキャンパス 5回 ・夏は高校3年生、 ・春は1、2年生をターゲット</p>	<p>《取組》 ○チラシ配布やHPなどにより事前告知を強化。 ○7、8月に3回開催(7/23 7名 8/11 8名 8/29 11名) ○3月に2回実施(3/12 8名 3/23 1名) ○参加者に「入試想定問題」を配布</p> <p>《評価》 ○7、8月に参加した26名のうち15名(6割)が受験。 オープンキャンパス参加者を増やすことが学生確保につながる。</p>	<p>4</p> <p>引き続き実施</p>	4	オープンキャンパスへ参加した生徒は、本校受験率が高いことがよく分かった。保護者も同伴できるのは、学費や施設環境など理解頂けるよい機会となっている。また、概要説明だけでなく体験メニューを組んでいるのは、参加生徒もイメージしやすく良い取り組みと考える。引き続き実施してほしい。	
	<p>○出前授業、ガイダンス実施の働きかけ</p> <p>○進路ガイダンスへの参加 ○県内農業関連4高校との連携強化 ・卒業論文発表会への招待(2/46) ・農林大生による出張発表会(プロジェクト課題研究) } 感染症の影響で中止</p> <p>○農芸高校との合同就職ガイダンスの実施(3/5) 15企業を招集(JAグループ、農業法人5社、農業関連企業9社)</p> <p>《評価》 ○オープンキャンパス直前の巡回により、キャンパス参加生徒を獲得 ○出前授業は5校、生徒270名を対象に9回実施。</p>	<p>《取組》 ○教育委員会との連携による高校訪問の実施 事前に学校教育課長から県内全高校へ協力依頼文を 発出のうえ、集中訪問を実施(6月)。 ○出前授業の実施 本校職員が高校からの依頼内容に基づき、直接授業を実施 講義内容:「和歌山県の農業」 } 6校8回 延べ270名の生徒へ説明 「農業の魅力と農林大学校」 } 「就農支援制度」 } 5校6回 参加予定</p>	<p>4</p> <p>本校職員が高校生へ直接PR説明するのは効果的 引き続き実施</p>	4	出前授業は、高校生に農林大学校を直接PRできる絶好の機会と考える。回数が増えたと職員の負担も増えるが、積極的に進めてほしい。 今回初めて実施した合同就職ガイダンスは、高校生に農林大学校進学へのきっかけを与えることにもつながったと考える。高校側も進路指導に有効なので、今後も協働して続けてほしい。		
<p>○アグリビジネス学科のPR強化</p>	<p>○アグリビジネス学科の特化パンフレットを配布 学校訪問時に、当科特色をPR (マーケティング、加工品開発など園芸学科との違いを説明)</p> <p>《評価》 ○R3年度アグリビジネス学科入学生2名。 ○アグリビジネス学科はマーケティング、加工品開発の専門学科と誤認 生産技術を学ぶ時間が少ない印象を持たれている。</p>	<p>3</p> <p>アグリビジネス学科においても、園芸学科と同様に栽培技術の習得に重点をおいたカリキュラムである事を説明。 さらに経営者になるためのマネジメント関連科目も履修できる旨をアピールする。</p>	3	特化パンフレット等でPRに力を入れた結果、アグリビジネス学科の知名度は上がっていると考える。 一方、アグリビジネスの占める分野は広いので、高校生には分かりづらいところもある。卒業後の就職先を整理し、教育内容が反映できていることをPRするのもよいのではないかと。			

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組と評価	内部評価	次年度以降の課題	外部評価	外部評価者コメント							
2 教育活動の充実強化	<p>○スマート農業の振興など農業を取り巻く情勢は刻々と変化</p> <p>○一方、本校学生の属性も多様化</p> <p>・学生の属性 (H28～R2)</p> <p> 専業農家 18%、 兼業農家 29%、 非農家 53%</p> <p>(H23～H27)</p> <p> 専業農家 38%、 兼業農家 23%、 非農家 39%</p> <p>・出身高校【再掲】 (H28～R2)</p> <p> 農業38%、 総合14%、 普通40%、 商工業8%</p> <p>○学生間に基礎学力の開きがある。</p>	<p>○時代の流れに即した授業の実践 ・新規授業科目の導入等</p>	<p>《取組》</p> <p>○新規授業の実施 《1年生》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語(15時限) 読解力、要約力、説明力等の向上 ・農業基礎(15時限) 農業の基礎知識、適正使用を理解し、実習授業で実践 ・毒劇物資格対策(30時限) 毒物劇物についての知識を習得し、資格取得率を向上 ・プレゼンテーション演習(15時限) 演習を通じて、聞き手の心をつかむ効果的な説明力を習得 <p>《2年生》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAP演習(48時限) GLOBAL.G.A.P.への取組を通して、農産物市場のグローバル化に対応し得る国際感覚を習得 ・農業簿記Ⅱ(15時限) 演習を通して、個人事業主や農業法人に必要な経理能力を習得 ・輸出戦略(16時限) 農産物輸出の現状と課題や商談の基礎について学習 <p>《評価》</p> <p>○基礎学力、プレゼンテーション能力は向上 ○資格試験の合格率は上がらなかった。</p>	<p>《取組》</p> <p>○対策授業の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策 ・危険物資格試験対策 <p>→職員に加え、外部講師を招聘(R1～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員による希望学生への補習を強化 ・危険物・毒劇物資格で1年次不合格生の2年次リトライ ・放課後補習の実施(1,2年生) 危険物:12回 毒劇物4回 <p>《評価》</p> <p>○R2資格取得率</p> <table border="0"> <tr> <td>園芸技術:64%</td> <td>農業技術検定2級:0%</td> </tr> <tr> <td>農業簿記3級:20%</td> <td>狩猟免許(わな猟):73%</td> </tr> <tr> <td>危険物:3%</td> <td>毒劇物:3%</td> </tr> </table>	園芸技術:64%	農業技術検定2級:0%	農業簿記3級:20%	狩猟免許(わな猟):73%	危険物:3%	毒劇物:3%	4	授業科目は変更せず継続する一方、資格試験対策を強化	4	<p>農業知識の吸収や実務向上を図るため「国語」「外国語(英語)」の基礎科目を設定していることは評価できる。</p> <p>履修時間・単位数について、卒業所要単位は4年生大学で124単位、2年生短期大学で62単位であるが、農林大学校は100単位以上を習得させている。2年生大学としては密度の高い教育を行っていることが伺える。さらに、2年間を通して卒業研究に取り組み、その成果を発表会を設けて発表させるなど、密な教育内容となっている。</p> <p>本校卒業生が、将来和歌山県農業のリーダーとなることを想定し、基礎学力をはじめコミュニケーション、プレゼンテーション能力を高めるためのカリキュラム編成となっている。これらの取組を教育方針に加えたことを明記してほしい。</p>
	園芸技術:64%	農業技術検定2級:0%												
	農業簿記3級:20%	狩猟免許(わな猟):73%												
危険物:3%	毒劇物:3%													
<p>○資格取得率 (H27～R1実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園芸技術:68% ・農業技術検定2級:24% ・農業簿記3級:50% ・狩猟免許(わな猟):77% ・危険物乙四:14% ・毒劇物:8% 	<p>○資格取得率向上を目指した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得率 園芸技術(2年):90% 農業技術検定2級(2年):40% 農業簿記3級(2年):80% 狩猟免許(わな猟)(2年):90% 危険物(1年):50% 毒劇物(1年):30% 	<p>《取組》</p> <p>○対策授業の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策 ・危険物資格試験対策 <p>→職員に加え、外部講師を招聘(R1～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員による希望学生への補習を強化 ・危険物・毒劇物資格で1年次不合格生の2年次リトライ ・放課後補習の実施(1,2年生) 危険物:12回 毒劇物4回 <p>《評価》</p> <p>○R2資格取得率</p> <table border="0"> <tr> <td>園芸技術:64%</td> <td>農業技術検定2級:0%</td> </tr> <tr> <td>農業簿記3級:20%</td> <td>狩猟免許(わな猟):73%</td> </tr> <tr> <td>危険物:3%</td> <td>毒劇物:3%</td> </tr> </table>	園芸技術:64%	農業技術検定2級:0%	農業簿記3級:20%	狩猟免許(わな猟):73%	危険物:3%	毒劇物:3%	<p>《取組》</p> <p>○模擬会社を9月に設立 社長や役員を設置し、生産から流通、販売までを社員となる学生たち自らの運営を目指す。</p> <p>《評価》</p> <p>○直売「和農市」の事業化を中心に税務署等と調整を進めていたが、業務の対象を広げる方向で再検討を行う。</p>	2	<p>資格試験対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補講で小テストを実施し個々の理解度をチェック ・個別指導の徹底 ・資格試験直前対策として模擬試験を実施 <p>アグリビジネス学科新規資格 ・食品衛生責任者資格</p>	3	<p>各種試験の合格率は低迷しているが、補講や受験回数を増やすなど学校側の対策は、よく検討されている。次年度はさらに対策を強化し、合格率向上に努めてもらいたい。</p>	
園芸技術:64%	農業技術検定2級:0%													
農業簿記3級:20%	狩猟免許(わな猟):73%													
危険物:3%	毒劇物:3%													
<p>○魅力ある教育の実践(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業関連技術の導入 	<p>○魅力ある教育の実践(その1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬会社の設立、学生運営 	<p>《取組》</p> <p>○ICT機器をミニトマト、メロン、バラロックウールハウスへ設置(R1)</p> <p>○制御ノード設置によりハウス環境制御装置の一括管理を実現(R2)</p> <p>○外気象ノード設置により天候に順応した自動環境制御を実現(R2)</p> <p>○自動環境制御が可能となったハウス3棟をケーブル接続し、スマートフォンでの一括管理を実現(R2)</p> <p>《評価》</p> <p>○2年生の卒業論文(ウスイ、キヌサヤの施設管理データ収集分析)に活用。 ・1年生プロジェクト課題(ICT管理でのミニトマトCO2施用による春期収量増産技術の実証)を設定し、試験設計を行った。(次年度から実証を開始)</p>	<p>《取組》</p> <p>○模擬会社を9月に設立 社長や役員を設置し、生産から流通、販売までを社員となる学生たち自らの運営を目指す。</p> <p>《評価》</p> <p>○直売「和農市」の事業化を中心に税務署等と調整を進めていたが、業務の対象を広げる方向で再検討を行う。</p>	4	<p>模擬会社の設立・運営</p> <p>ICT技術の実証 プロジェクト課題、卒業論文研究に活用</p> <p>スマート機材の実践活用 ・スマート農機演習の新設(ドローン、ラジコン草刈機、スピードスプレーヤー等) ・専攻実習でスマート農業を実践</p>	4	<p>模擬会社の設立について、栽培技術だけでなく販売、消費者動向など総合的な教育内容を提供しているのは評価できる。次年度は会社設立、運営に向けて具体的な授業内容を検討してみたい。</p> <p>スマート農業技術の導入について、農業技術の日進月歩に対して、農林大学校においても迅速に対応しているといえる。ICT機器や省力機械が導入され、環境整備が整ったことから、今後は学生のスマート農法の習得や実践力の向上に注力されたい。</p> <p>GAPの取組について、GLOBAL.G.A.P.を大学校で取得したことは高く評価できる。認証取得に向けて学生が取り組んだ演習のノウハウは、JAや食品会社などの就職先でも大いに役立つと考える。初年度で学生指導も大変だったと思うが、引き続き取り組んでほしい。他の教育機関や就職先で取り組めるケースも少ないことから、農林大学校のPR材料としてほしい。</p>							
<p>○魅力ある教育の実践(その3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAPの取組を加速化 	<p>○魅力ある教育の実践(その2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業関連技術の導入 	<p>《取組》</p> <p>○GAP演習を授業化 外部講師を招聘し授業化</p> <p>○GLOBAL.G.A.P.認証取得(カキ)</p> <p>○GLOBAL.G.A.P.に対応した施設、機材の設置</p> <p>《評価》</p> <p>○国庫事業を活用し、コンサルタント会社を講師に招き、GAP演習を実施(12回)11/3付、カキでGLOBAL.G.A.P.認証を取得 国際基準に対応した生産工程管理を実践できる人材を育成できた。</p>	<p>《取組》</p> <p>○模擬会社を9月に設立 社長や役員を設置し、生産から流通、販売までを社員となる学生たち自らの運営を目指す。</p> <p>《評価》</p> <p>○直売「和農市」の事業化を中心に税務署等と調整を進めていたが、業務の対象を広げる方向で再検討を行う。</p>	4	<p>国庫事業を活用し継続実施 GLOBAL.G.A.P.カキの継続認証 トマトの新規認証</p>	4								

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組と評価	内部評価	次年度以降の課題	外部評価	外部評価者コメント
3 進路支援の強化	<p>○非農家出身の学生が増え就職に関する指導や就職先の開拓などきめ細やかな対応が必要となっている。</p> <p>○就職試験の早期化に伴い学生の就職活動は1年次後半には準備を始める必要がある。</p> <p>○1年生においては、就業意識は低く、早期から積極的に活動する学生は少ない。</p> <p>○卒業時の進路確定率 96% (H27～R1)</p>	<p>○将来設計能力の養成 ・授業科目の変更(R1～) ・インターンシップ研修時期の改善(R1～)</p>	<p>《取組》</p> <p>○進路支援強化に向けた授業の再編 ・キャリアデザイン授業(1年生)の導入 学生が主体的に、人生と職業、キャリアプランを思索するため専門外部講師と職員連携による授業を実施</p> <p>・就職活動の早期化に対応したインターンシップ研修の実施 研修時期を1年後期と2年前期に変更し 早まる就職活動への対応を強化</p> <p>《評価》</p> <p>○進路選択に向けた意識の醸成 ○キャリアデザイン授業で一部の内容を就職希望者と就農希望者に分けて実施したことで、卒業後に向けた準備を具体的に進めることができた。</p>	4	就職、就農に分けたカリキュラムを実施(キャリアデザイン)	4	就職する学生が増えていることから、キャリアデザインを導入したことは評価できる。就職活動も早まるなか、学生の意識づけを早期におこなうことは有効と考える。就職、就農に分けたカリキュラムは今後も続けるべき。専門講師を招くなど、外部講師の質が高い部分はこれからもアピールしてほしい。
			<p>○ハローワークとの連携強化</p> <p>○個別面談による進路指導 ○求職情報の常時提供</p> <p>《取組》</p> <p>○ハローワークからの講師派遣 ・求人票から見る就労条件のポイント ・就職面談に有利なエントリーシート作成 ・ハローワーク職員による模擬面接の実施(4回、6名)</p> <p>○個別面談の実施(進路指導職員、担任との2者面談) ・1年生:6月、7月:進路状況調査・二者面談 10月:三者面談 6、12、1月:ハローワーク講師による就職指導</p> <p>・2年生:5月:就職活動の動向調査 6月:二者面談、進路指導、HW講師による模擬面接 7月:非内定者への就職活動支援 個別面談、模擬面接の反復練習 卒業生在勤企業への学生紹介</p> <p>《評価》</p> <p>○2年生15名全員が進路確定。 ○ハローワーク、進路指導職員、担任による模擬面接をおこなうことで、就職活動のスキルアップにつながった。</p>	3			
		<p>○就職ガイダンスの開催 対象:1年生 開催日:3月7日</p> <p>《取組》</p> <p>○本校1年生を対象に、紀北農芸高校との協同開催として企画。 JA、農業法人、農業関連企業等へ案内、15社が出席。【再掲】</p> <p>《評価》</p> <p>○早期就職活動の意識づけが図られた。企業との個別相談を通して、企業が求める人材を把握するとともに、就職面接の準備意識が高まった。</p>	3	引き続き実施	3	合同就職ガイダンスは、早まる就職活動に対応した企画であり、学生の意識向上に効果的と考える。次年度以降も強化して進めていただきたい。	
4 情報発信の充実	<p>○農林大学校が一般に十分認識されていない</p>	<p>○ホームページによる農林大学校の魅力発信</p>	<p>《取組》</p> <p>○農林大ホームページを県ホームページへ移行し(R1)情報を発信 ○農大ブログを通して、きめ細やかな情報を発信</p> <p>《評価》</p> <p>○県ホームページ更新29回 入学試験、和農市、オープンキャンパス等を情報発信 ○ブログ掲載 66回 日常の学生生活、学校生活をタイムリーに発信することで本校の魅力をPRできた。(約2,300アクセス/月)</p>	4	引き続き実施	4	ホームページ、ブログより、今は動画の時代。YouTube等の活用も検討してみてもどうか。
			<p>○マスメディア等を通じた情報発信</p> <p>《取組》</p> <p>○報道機関への資料提供9回 オープンキャンパス、入学試験、GLOBAL G.A.P.認証取得等</p> <p>《評価》</p> <p>○ラジオ4回の露出(和歌山放送:7/23,3/4,2/10 JAアワー:3/4) ○テレビ放映5回 (GAP:NHK、テレビ和歌山 オープンキャンパス:テレビ和歌山 卒業式:テレビ和歌山) ○新聞掲載回数:7紙、24件</p>	4			
		<p>○地域における効果的な情報発信 ・関係機関(市町、JA等)や地元民間企業(JR、スーパー等)を通じた情報の発信</p> <p>《取組》</p> <p>○市町(経営支援課協力)、JA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載とポスター掲示を要請 ○民間企業へポスター掲示を要請</p> <p>《評価》</p> <p>○市町、JA等の機関広報誌:10回 ○ポスター掲示113カ所 市町18 JA8 民間企業等 87</p>	3	引き続き実施	3	継続実施が適当である。	